



Title	タイ語における視覚語の比喩転用
Author(s)	宮本, マラシー
Citation	言語文化研究. 2014, 40, p. 153-175
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/27622
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

タイ語における視覚語の比喻転用

宮 本 マ ラ シ ー

Visual Metaphors in the Thai Language

MIYAMOTO Marasri

Summary: This paper aims to study the characteristics of the metaphoric transfer of words relating to visual sensations in the Thai language by semantically analyzing adjectives used to describe eyesight in idiomatic expressions. In this paper, the adjectives describing eyesight are restricted to words concerning sensations of dark and light, color, shape, position, and words for sensations of movement. The results indicate that words for eyesight in Thai have developed in order to metaphorically describe the auditory sense, the sense of taste and the olfactory sense. Moreover, they have developed beyond the domain of sensation to describe states of things or affairs, people's appearance, social status, personality, emotion and morals, etc. From studying and understanding these metaphorical meanings, inferences can be made about the thought patterns of Thai people.

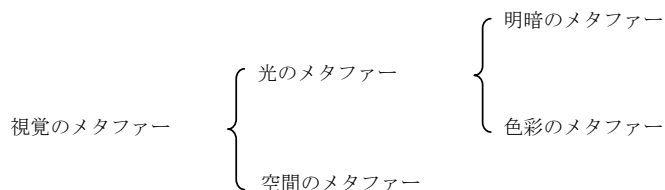
Keywords: metaphors, words for eyesight, Thai idiomatic expressions

キーワード：比喻，視覚語，タイ語の慣用表現

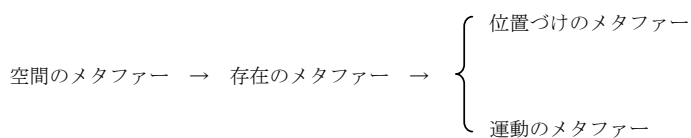
1. はじめに

「視覚は、五感のなかで他の感覚を圧倒する力を持っている」[瀬戸 1995 (2011) :22]。タイ語では、瀬戸の指摘の通り、視覚を表す基本語彙及びそれらの語彙から派生した熟語や慣用句は味覚、嗅覚、聴覚のそれらより圧倒的に多い。そのように視覚語が多く存在しているにもかかわらず、現在に至るまで、タイ語における視覚に関する言語表現の研究が大きく注目されることはなかった。視覚は『精選日本語大辞典』[小学館 2006]によると、「目を受容器として生ずる感覚の総称。光が網膜上にある感覚細胞を刺激して生じる。明暗覚、色覚、形体覚、運動覚などが含まれる」と定義されている。一方、瀬戸 [1995 (2011)] は、視覚のメタファーを次のように分類している。

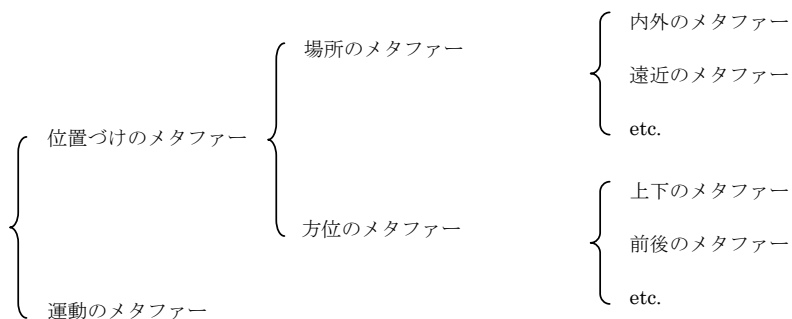
[図 1]



[瀬戸 1995(2011):75]



[瀬戸 1995(2011):79]



[瀬戸 1995(2011):83]

本研究は、視覚を表す形容詞を取り扱う。しかし、視覚の形容詞の数があまりにも多くあるため、ここでは、小学館 [2006] と瀬戸 [1995 (2011)] を参考にし、視覚語の一部である明暗覚、色覚、形体覚、内外覚、遠近覚、上下覚、前後覚、そして運動覚を表す形容詞のみ研究の対象とする。

1.1. 研究目的

本研究は、慣用的な表現として用いられる視覚語のその形式、並びに意味合いを分析することで、タイ語における視覚語の比喩転用の方向性および意味的拡張といった特徴を考察することを目的としている。

1.2. 先行研究

Williams J.M. [1976] は比喩転用 (Metaphoric Transfer) について論じた際、「共感覚的比喩 (Synaesthesia)」について次のように指摘した。全ての言語における比喩的転用の最も典型的な形式は、ある感覚の分野のことを表現するのに別の感覚分野に属する語を比喩的に用いる共感覚的比喩 (Synaesthesia) である [Williams 1976:463]。また、色彩の修飾語の比喩転用については、色彩語は聴覚に転用することがあるし逆方向の転用もあるが、それ以外の比喩的転用の方向は一方的であることも指摘した。たとえば、*dull color* のように、触覚語から色彩語に転用があっても、色彩語から触覚語へ逆方向に転用することはなく、また、味覚語は、一旦聴覚語に転用した後色彩語に転用されることは見られても、直接色彩語に転用されることはないし、逆に色彩語から味覚語に転用されることもない、とも述べている [Id.at464]

Williams の指摘した比喩転用の方向性はその後多くの研究者によって再検討が行われている。その中に、国広 [1989]、山口 [2003]、瀬戸 [2003]、楠見 [2005] などがある。国広 [1989] は日本語の用例を示しながら、Williams の指摘した法則に「味覚→視覚」、「触覚→臭覚」¹⁾を追加した。山口は「丸い味」や「四角い味」などを取り上げ、視覚から味覚に転用していることがあることを証明している。瀬戸は、一方向に従わない例が非常に多くあり、その中に視覚から味覚に転用される用例が最も多くあることを示した。楠見 [2005] は、共感覚的比喩表現の心理実験に基づく評定データとインターネット上の頻度データを対応させて、Williams などによる比喩転用の方向性の再検討を行った。感覚形容語の共感覚的な修飾方向には、逆方向の用例もあるが、順方向の共感覚的修飾語句は逆方向のそれよりもはるかに頻度が高く、受け手に理解される可能性も高いということを指摘した。

瀬戸 [1995 (2011)] は「見る」は、「知る」そして「分かる」と融合するということを検証するために、日本語の「見る」や英語の「see」などの意味的拡張を考察した。その際、『見る』は眼球によって外部の光をとらえることだけを意味するのではない。むしろ、一次的知覚が二次的な認証に高まることを主要な内容としている。この知覚と認識の間で、「見る」は豊かな意味の広がりを示す [瀬戸 1995 (2011) :22]。

タイ語に関しては、次のような研究が見られる。佐藤 [2000] はタイ語における感覚形容詞のメタファー的拡張の考察の一環として、視覚語の意味的拡張について述べている。明暗覚の 11 語の語句を取り上げ、味覚から視覚へ、また視覚から聴覚への比喩転用が見られることを論証した。比喩転用の方向性については、聴覚から視覚に転用することが見られないことを除き、基本的に Williams の指摘した一方向と同じ傾向であることを指摘している。宮本 [2010] はタイ語における色彩修飾語の意味的特徴を考察する際に、色彩語の比喩転用についても触れた。味覚の分野の言葉から色彩語に転用されないことがないという Williams J.M. [1976] の指

1) 本稿では「嗅覚」と表記するが、ここでは引用文献の表記通り「臭覚」としている。

摘と異なり、タイ語においては味覚語から色彩語にも直接転用されることがあることを論述した。しかし、当該研究の対象は視覚の一部である色覚のみであるし、本格的な比喩転用の分析までは至っていない。また、宮本〔2013〕は味を表すタイ語における比喩を考察する際、Williams J.M.〔1976〕が指摘した法則とは違い、視覚語から味覚語に転用される例が多くあるように、視覚語から味覚語に逆の方向で転用することがあると指摘した。

本研究は、タイータイ辞典『Khlāng Kham』〔Bandhamedha Navavan 2001〕、タイータイ辞典『Potchananukrom Chabap Ratchabandittayasataan』〔Ratchabandittayasataan 2003〕『タイ日辞典』〔富田 1990〕、タイのインフォーマントからの教示、そしてインフォーマントへのインタビュー、から収集した語句を研究の対象とするものである²⁾。それぞれの語句の日本語での意味は主に、『精選版日本国語大辞典』〔小学館 2006〕を参考にしている。収集した語句とその意味は 2. で提示する。

2. 視覚語とその意味的拡張

ここでは、明暗覚、色覚、形体覚、内外覚、遠近覚、上下覚、前後覚、そして運動覚を表す形容詞の基本的な意味とそれらの転じた意味での語句を取り上げ説明する。

2.1. 明暗覚形容詞 : sawàaŋ 明るい, sǎi 透明な, méut 暗い, mua 霞んだ

2.1.1. sawàaŋ 明るい :

taa sawàaŋ (目・明るい) 目が覚める<眠りからさめる, 心の迷いが去って本来の姿に立ち返る>³⁾

hǔu taa sawàaŋ (耳・目・明るい) 事情に明るい, 事情がよく分かるようになった, 目が覚めた<眠りからさめる, 心の迷いが去って本来の姿に立ち返る>

pàak sawàaŋ (口・明るい) 他人の秘密を言いふらすのが好きな

panyaa sawàaŋ (知恵・明るい) 明智

cai sawàaŋ (心・明るい) さえている<気持が純粋で澄んでいる>, 心が晴れ晴れする

2.1.2. sǎi 透明な :

taa sǎi (目・透明な) 子供のように目が澄んでいる, 純粋な

dǔu taa sǎi (頑固な・目・透明な) 知っているのに, 知らないふりをして何かを無理矢理に行う

2) タイのインフォーマントにインタビュー形式で確認した。インタビューは、平成 23 年度科学研究費助成事業、基盤研究 (C)、課題番号 :23520670 の助成を受け、平成 25 年 9 月 2 日～9 月 9 日に、共通タイ語を使用している 30 代～60 代の計 7 名の男女に行った。内訳 : 30 代男性 1 名, 40 代男性 1 名女性 2 名, 50 代女性 2 名, 60 代女性 1 名。

3) <>内の記載は追加の説明を表す。

nâa sǎi (顔・透明な) 肌が透き通るような若々しい顔をしている

sǎa sǎi (声・透明な) 澄んでいる声

cai sǎi (心・透明な) 一点の曇りなく心が澄みきっている, 純粋な心

hǔa sǎi (頭・透明な) 利に聡い

chaná? sǎi (勝つ・透明な) 疑いの余地がない勝利である

2.1.3. mǔut 暗い:

nâa mǔut (顔・暗い) 目がくらむ, 逆上して理性を失う

mua mǔut (手・暗い) 誰がやったか分からないように悪事を働いた者

mǔut pèet dân (暗い・八・面) 全く分からない, 何が何やらさっぱり分からない, 思案投げ首の態

máa mǔut (馬・暗い) ダーク・ホース

ǎai mǔut (奴・暗い) 黒人の蔑称語

ǵao mǔut (影・暗い) ある人の裏に影響力の強い悪人の存在, 黒幕

talàat mǔut (市場・暗い) 闇市場

dam mǔut (黒い・暗い) 暗い, 真相が明らかでない

2.1.4. mua 霞んだ:

taa mua (目・霞んだ) 目が霞む, 理性を失う<普通は nâa-mǔut-taa-mua (顔・暗い・目・霞んだ) という形で用いられる>

mua mao (霞んだ・酔う) 耽溺する, <色香, 酒などに>溺れている

mua mǔwǵ (霞んだ・曇った/すかつとしない) 汚点のある, 潔白でない, 手の汚れた

明暗覚の形容詞は, 「sawǵaŋ 明るい」と「sǎi 透明な」は明らかな状態, 透明な状態, 潔癖, 理性的という意味で用いられ, 一方, 「mǔut 暗い」と「mua 霞んだ」は裏に隠されている状態, 不明, 汚れ, また理性を失うという意味で用いられる。明暗覚形容詞が「cai 心」と「panyaa 知恵」と共起すると, 日常生活の会話よりも仏教の話における表現として用いられることが多い。

2.2. 色覚形容詞: dam 黒い, khǎao 白い, deej 赤い, khǐao 緑の, lǵaŋ 黄色い

2.2.1. dam 黒い:

tua dam (身体・黒い) 肌が黒い

khon dam (人・黒い) 黒人

hǔa dam (頭・黒い) 若者

taa dam dam (目・黒い・黒い) 小さくあどけない子供

nâa dam khram-khriat (顔・黒い・没頭する) ストレスのため, または仕事に没頭しているため, 顔がくすんだ

cai dam (心・黒い) 残忍な, 残酷な

dam meut (黒い・暗い) 真相が明らかでない

hẽn dam hẽn deej (見える・黒い・見える・赤い) はっきり決着する, 黒白をつける

2.2.2. khăao 白い:

khon khăao (人・白い) 白人

taa khăao (目・白い) 白眼, 臆病な

hũa khăao (頭・白い) 白髪, お年寄り

phâa khăao (布・白い) 純粹, 潔白

yók thonj khăao (揚げる・旗・白い) 降伏する

2.2.3. deej 赤い:

deej (赤い) 共産主義者, 赤いシャツがシンボルのある政治的な活動団体を呼ぶ語, 隠されていたことがばれる, 秘密がばれる

nâa deej (顔・赤い) 恥ずかしさ, 酔い, 怒りによって顔が赤くなる

hũa deej (頭・赤い) 西洋人

dêk hũa deej (子供・頭・赤い) タイ人と西洋人との間の混血児

sỏom deej (朝鮮ニンジン・赤い) 北朝鮮

taa deej (目・赤い) 泣く, 結膜炎

ngan deej (銀・赤い) 偽金⁴⁾

khâao deej (米・赤い) 玄米

kin khâao deej (食べる・米・赤い) 刑務所に入る⁵⁾

lăj-khaa deej (屋根・赤い) 精神病院⁶⁾

lonj deej (降りる・赤い) 禁断症状が出る⁷⁾, 欲望に我慢できなくなる

hẽn dam hẽn deej (見える・黒い・見える・赤い) はっきり決着する, 黒白をつける

2.2.4. khĩa 緑の:

sút lâa fả khĩa (極める・下・空・緑の) 青空の極み, 地の果て

nâa khĩa (顔・緑の) 外傷を受けて苦しんでいる時の顔色, 青あざになる

sỉaŋ khĩa (声・緑の) 怒気を含んだ声

taa khĩa (目・緑の) 怒気を含んだ目

phàak khĩa (口・緑の) 寒さに唇が真っ青になる

mễn khĩa (臭い・緑の) 青くさいく若葉をもんだような匂い>

4) 銀で作られた偽物の金は使っているうちにだんだん赤(茶)色っぽく変わることによる [インフォーマント]。

5) 昔, タイの囚人は玄米を食べさせられたため [インフォーマント]。

6) 1947 年ごろまでのバンコクに赤い屋根の精神病院があったことに由来した [富田 1990:1922-1923]。

7) lonj は下痢という意味で用いられる。lonj deej は血便の下痢をする。アヘンの禁断症状に関して言うことが多い [富田 1990:1561]。

khoom khǎao (提灯・緑の) 青提灯<青楼, 昔の遊郭のシンボル>

fai khǎao (信号・緑の) 青信号, 許可を与える, 自由にやらせる

tòk khǎao (釣る・緑の) 売春婦にさせる目的で金で若い女性を騙す, 後の利益のために投資する⁸⁾

2.2.5. lǎaŋ 黄色い:

lǎaŋ (黄) 赤シャツの団体と対抗する, 黄色いシャツがシンボルのある政治的活動団体を指す言葉

phāa lǎaŋ (布・黄色い) 僧侶

nám lǎaŋ (水・黄色い) リンパ液

khaaŋ lǎaŋ (顎・黄色い) 手痛い目に会った

タイ語の 11 語の基本色彩語の中では, 意味的な拡張は主に dam 黒い, khǎao 白い, deŋ 赤い, khǎo 緑の, lǎaŋ 黄色い, が用いられ, 外形や外見の身体的特徴, ある感情や感覚によって変化する身体的特徴, 年代, 人種, ある特定の人々の集団, 理念そして道徳にまで意味的な拡張が見られる。その中に, 「dam 黒い」は「deŋ 赤い」と「khǎao 白い」の対の意味合いを持つ例が多く見られる。「dam 黒い」は「deŋ 赤い」の反対語として用いられる場合, 「dam 黒い」は不明, 「deŋ 赤い」は明白になる。また, 「dam 黒い」が「khǎao 白い」と反対語として用いられる場合, 「dam 黒い」は若さを表す一方, 汚れ, 不道德という意味を持つのに対し, 「khǎao 白い」は老いや弱さを表す一方, 純粋さ, 潔癖さも表す。

2.3. 形体覚形容詞: klom 丸い, liam 角張った, lǎem 尖がっている, yaa 長い, sân 短い, sǔuŋ 高い, tàŋ 低い, fīa 背が低い, yài 大きい, too でかい, lék 小さい, mǎi 新しい, kào 古い, kwāaŋ 広い, khǎep 狭い, lék 深い, tǎuŋ 浅い, nǎa 厚い, baŋ 薄い, tɛŋ ピンと張った, yòŋ 弛んでいる, troŋ 真っ直ぐ, chǎe 歪んだ, 傾いた, thǔp 空気や光が十分に通らない, pròŋ あまねく, lǎam 緩い, kháp きつい

2.3.1. klom 丸い:

klom (丸い) 大瓶 (円形) のタイ・ウィスキー

klom pen lǔuk-manaao (丸い・と同じように・ライム) つかみ所のない, 容易に尻尾をつかませぬ

kòt kan klom (抱く・合う・丸い) ぴったりと抱き合う

klom klòom (丸い・柱を削って丸く美しくする) 調和がよい (味)

klom klǔuŋ (丸い・飲み込む) 適合する, よく合う, うまく溶け込んでいる

8) tòk khǎao (釣る・緑の) の緑は稲または龍眼<果物の一種>のことを言う。農民が投資者から金を借り, 出来た米や龍眼を借金の代わりに投資者に返していたことに由来した。北部タイの村にいる未成年の女の子の親に金銭を渡して, その娘をバンコクや外国で売春をさせる意味で用いられるようになっている [Ratchabandittayasataen2003]。また, 最近では, 後の利益のためにある投資をしておくという場合にも用いられるようになっている [宮本 2010 (1) :51]

klom kliao (丸い・螺旋) 団結する, 和合する, 一つに溶け合った

2.3.2. liam (角張った):

lêe liam (計略・角張った) 策略, 悪だくみ

lóp liam (消す・角張った) 相手の策略を見破る, 名誉を失墜させる

sia liam (失う・角張った) すたれる, 騙される

2.3.3. lěem (尖がっている):

hũa lěem (頭・尖がっている) 鋭い頭脳

taa lěem (目・尖がっている) 目がきく, 目の肥えている

siaŋ lěem (声・尖がっている) かん高い声

rót lěem (味・尖がっている) 甘さか酸っぱさのどちらかが際立っている混合味

wăan lěem (甘い・尖がっている) 甘さが際立っている

「klom 丸い」はつまづくことなくスムーズな行動, 調和がとれている, 「liam 角張った」は不調和, そして, 「lěem 尖がっている」は際立っている状態を表すように意味が広がっている。

2.3.4. yaao (長い):

pueŋ yaao (鉄砲・長い) ライフル, 散弾銃

máa yaao (馬・長い) ベンチ

săai-taa yaao (視線・長い) 遠視, 老眼, 長期的なものの考え方が出来る

sarà? sĩaŋ yaao (母音・音・長い) 長母音

yueŋ yaao (立つ・長い) 長持ちである, 長引いている

mueŋ yaao (手・長い) 自分のものにしたり, 奪ったりする力がある<普通, mueŋ khrai yaao

săao dãi sĩaŋ ?ao (早い者勝ち, 強い者勝ち) の慣用表現に見られる>

2.3.5. sân (短い):

pueŋ sân (鉄砲・短い) ピストル

khũeŋ sân (波・短い) 短波

rĩaŋ sân (話・短い) 短編

wongcœn sân (サークル・短い) ショートサーキット

săai-taa sân (視線・短い) 近眼, 長期的にもものの考え方が出来ない

sarà? sĩaŋ sân (母音・音・短い) 短母音

khít sân (考える・短い) 思いつめて自殺を図る

lín kài sân (舌・鶏・短い) 呂律が回らない

?aayú? sân (歳・短い) 短命な

mueŋ sân tiin sân (手・短い・足・短い) 事業を助けて成功させるには力不足な

「yaao 長い」は視野, 思考, 思慮, 能力に長けていることを表し, 対照的に, 「sân 短い」は視野, 思考, 思慮, 能力に欠けることを表す。

2.3.6. **sǔuŋ** (高い) :

ʔàksǒɔn sǔuŋ (文字・高い) 高級子音文字⁹⁾

sǎŋ sǔuŋ (音・高い) 高い音

khreŋ sǔuŋ (物・高い) 公式行事の際に用いられる高級王族地位の象徴物

sǔuŋ ʔaayúʔ (高い・歳) 高齢の

khon chán sǔuŋ (人・階級・高い) 上流階級の人

hǔa sǔuŋ (頭・高い) 自分の身分や立場に釣り合いな高価な物を身につけることが好きな
(人)

mái réuɕàk thǐi tám thǐi sǔuŋ (～ない・知る・所・低い・所・高い) 貴賤の別を弁えぬ

cǐtcai sǔuŋ (心・高い) 高尚な心

khwaam-lèamlám tám sǔuŋ (不揃・低い・高い) 不平等

fai sǔuŋ (望む・高い) 高望みをする

mák yài fai sǔuŋ (欲する・大きい・望む・高い) 大志を抱く, 野望を抱く

2.3.7. **tám** (低い) :

sǎŋ tám (音・低い) 低い音

ʔàksǒɔn tám (文字・低い) 低級子音文字

fai tám (望む・低い) 下賤なことを好む

khon chán tám (人・階級・低い) 下層階級の人

sèetthakít tòk tám (経済・落ちる・低い) 不景気

cai tám (心・低い) 下劣な心

tòk tám (落ちる・低い) <地位や価格が>下落する

taa tám (目・低い) 上下貴賤優劣などを見分ける能力のない, 見る目がない

2.3.8. **fai** (背が低い) :

sǎan fai (裁判・背が低い) リンチ

「sǔuŋ 高い」, 「tám 低い」, 「fai 背が低い」は物理的な高低の違い以外に、主に人の立場や能力の違いを表す。「sǔuŋ 高い」は高貴, 憧れの存在や立場, 善であるのに対し, 「tám 低い」と「fai 背が低い」は下劣, 避けたい状態, 悪を意味する。

2.3.9. **yài** (大きい) :

yài (大きい) 偉い

sǎŋ yài (声・大きい) 低い声

nāa yài (顔・大きい) 見栄を張って気前よくふるまう, いい恰好して太っ腹なところを見せる

9) タイ語の子音文字は音階によって, 「高級子音文字」, 「中級子音文字」そして「低級子音文字」と三つのグループに分けられている。

nâa yài cai too (顔・大きい・心・でかい) 見栄を張って気前よくふるまう, いい恰好して太っ腹なところを見せる

rêaŋ yài (こと・大きい) 大事件

phûu yài (者・大きい) 大人, 目上, お偉方, 村長

khruu yài (教師・大きい) 校長

yài too (大きい・でかい) 地位が高い, 大々の

chán phûu yài (級・者・大きい) 高い立場にいる管理職の人

khài wàt yài (熱・風邪・大きい) インフルエンザ

phûu yài (鉄砲・大きい) 大砲

bâan yài (家・大きい) 本妻の住む家, 本妻

2.3.10. too (でかい):

taa too (目・でかい) 目が大きい, 関心を示す, 欲しがる, 欲を起こす

yài too (大きい・でかい) 地位が高い, 大々の

nâa yài cai too (顔・大きい・心・でかい) 見栄を張って気前よくふるまう, 恰好をつけて太っ腹なところを見せる

khui too (しゃべる・でかい) でっかい口を叩く

ʔuət too (自慢する・でかい) 自慢して大口を叩く

waan too (振る舞う・でかい) でかい態度をとる

hũa too (頭・でかい) 頭が大きい<貧しくて, 食うや食わずのために, 身体がやせ細って頭が大きく見える>

2.3.11. lék (小さい):

bâan lék (家・小さい) 妾の家, 妾

sĩaŋ lék (声・小さい) <女性のような>優しくて柔らかい声

rêaŋ lék (事・小さい) 些細なこと

tham taa lék taa nóoi (する・目・小さい・目・少ない) 色目を使う

kèp lék phasǝm nóoi (貯める・小さい・合わせる・少ない) 少しずつ貯める

「yài 大きい」と「too でかい」は同じような意味を持つが, それぞれの比喩転用には違いが見られる。「yài 大きい」は有力, または影響力が大きいという意味合いで転用されるが, 「too でかい」は主に, 態度が大きいまたは表面だけの意味になる。そして, 「lék 小さい」は「yài 大きい」との反対語として, 弱い, 影響力がない, やさしいという意味合いを持つようになった。

2.3.12. mài (新しい):

pĩi mài (年・新しい) お正月

nâa mài (顔・新しい) 新人

mɛu mài (手・新しい) 新入り, 新米
 nóɔŋ mài (弟／妹・新しい) 新入生
 yúk mài (時代・新しい) 新時代
 samǎi mài (時代・新しい) 近代, 最新の
 hǔa mài (頭・新しい) ものの考え方が新しい

2.3.13. kào (古い):

pīi kào (年・古い) 旧年, 前の年
 kláp baan kào (帰る・家・古い) 前の家に帰る＝死ぬ
 hǔa kào (頭・古い) 古い頭
 mɛu kào (手・古い) 年期の入った人, 熟練者
 phǔan kào (友人・古い) 旧友
 nǎa kào (顔・古い) 古顔, 古なじみ
 khon kào (人・古い) 前の人

「mài 新しい」は未来, 今までと違った人, 物, 思考, そして未熟という意味を持ち, 「kào 古い」は過去, 今までと変わらない人, 物, 思考, 熟練という意味的な拡張が見られる。

2.3.14. kwâaŋ (広い):

cai kwâaŋ (心・広い) 寛大な
 sǎai taa kwâaŋ klai (線・目・広い・遠い) 視野が広い

2.3.15. khêep (狭い):

cai khêep (心・狭い) 度量が狭い, 利己的な
 sǎai taa kháp khêep (線・目・きつい・狭い) 視野が狭い
 khwaam-rúu khêep (知識・狭い) 狭い知識

「kwâaŋ 広い」は思考や感情が柔軟であることを表すのに対し, 「khêep 狭い」はその柔軟性が足りないさまを表す意味の展開が見られる。

2.3.16. lúk (深い):

pàa lúk (森・深い) 奥深い森
 khwaam-khít lúk sǔŋ (考え・深い・深い・深い) 考えが非常に深い
 khwaam-sǎmphān lúk sǔŋ (関係・深い・深い) 深い関係, 深い仲
 rôt-châat lûm-lúk (味・深い) 深みのある味
 khít lúk (考える・深い) 深く考える, 考えすぎる

2.3.17. tûun (浅い):

tīi tûun (戦う・浅い) <スポーツや勝負事において>挽回する
 khwaam-khít tûun (考え・浅い) 考えが浅い
 tûun tan cai (浅い・詰まっている・心) 感激のあまり

plaa taai náam tûen (魚・死ぬ・水・浅い) 魚が池などの浅いところで泳ぐと見つかりやすく、人にとられてしまうように油断していると失敗してしまう行動や考え

「lék 深い」は親密で、複雑で、奥行きがあるさまという意味であるのに対し、「tûen 浅い」は主に、表面的、単純で、内に収めることが出来ないという意味に転用されている。

2.3.18. nǎa (厚い):

phǒm nǎa (髪・厚い) 髪の毛が多い
 nǎa nêen (厚い・混んでいる) ぎゅうぎゅう詰め
 nǎa taa (厚い・目) よく目に付く
 nǎa hǔu nǎa taa (厚い・耳・厚い・目) 非常に多い
 nǎa hǔu (厚い・耳) よく耳にする、よく噂を聞く
 nǎa nǎa (顔・厚い) 恥知らず、厚顔の

2.3.19. baan (薄い):

phǒm baan (髪・薄い) 髪の毛が少ない
 baan taa (薄い・目) まばらになる、間隔が遠のく
 bēep baan (無力・薄い) きゃしゃな、薄くてもろい形状、弱い
 bòp baan (ぐったりした・薄い) 薄い、虚弱な
 baan bao (薄い・軽い) 軽減した、少なくなる、軽やかな
 nǎa baan (顔・薄い) 何かの行動をとる勇気がなく恥ずかしがる、人目を気にする
 「nǎa 厚い」は主に密度が高い、外部からの刺激に強い物理的または心理的状态であり、「baan 薄い」は密度が低い、外部からの刺激に弱い物理的または心理的状态である、という意味的拡張が見られる。

2.3.20. tuj (ピンと張った):

nǎa tuj (顔・ピンと張った) 顔をひきつらせて、不快げな顔で
 tuj khǐat (ピンと張った・緊張した) 緊張する

2.3.21. yòon (弛んでいる):

yòon (弛んでいる) 軽減する、弛んでいる
 yòon yaan (弛んでいる・弛んでいる) 軽減する、弛んでいる
 「tuj ピンと張った」と「yòon 弛んでいる」はいずれも適度ではない状態を表す。「tuj ピンと張った」は厳しい、窮屈、力が張っている状態であるのに対し、「yòon 弛んでいる」は勢いが失われている、力が弱っている状態ということに意味が広がっている。

2.3.22. troj (真っ直ぐな):

dooi troj (〜で・真っ直ぐな) 直接
 phūt troj (話す・真っ直ぐな) 正直に言う、ストレートに言う
 sũ troj (忠実な・真っ直ぐな) 正直な

trong weelaa (真っ直ぐな・時間) 時間通り, 時間を守る

2.3.23. chề (歪んだ, 傾いた):

phũut chề-chải (話す・歪んだ, 傾いた) 話をそらす

「trong 真っ直ぐな」はありのままの状態, 率直な性格, そして率直な精神という意味に広がっている。一方, 「chề 歪んだ, 傾いた」は, わざと本筋から外すという意味に展開されている。

2.3.24. thóp (空気や光が十分に通らない):

pàa thóp (森・空気や光が十分に通らない) 密林

panyaa thóp (知恵・空気や光が十分に通らない) 知恵遅れの

hũa thóp (頭・空気や光が十分に通らない) 頭が悪い

2.3.25. pròong (あまねく, 密でない):

pàa pròong (森・あまねく, 密でない) 疎林

pròong cai (あまねく, 密でない・心) 明朗な気分の

pròong taa (あまねく, 密でない・目) 透けて見える, 目をさえぎるものがない

pròong sểng (あまねく, 密でない・光) 半透明の

pròong sải (あまねく, 密でない・透明な) 透明な

「thóp 空気や光が十分に通らない」は物理的, 思考性において回りや先が見通せない状態であり, 理性に欠ける状態を表し, 「pròong あまねく, 密でない」はその対照的な意味合いに展開されている。

2.3.26. lữam (緩い):

lữam (緩い) 不注意な, だらしない

lữam tua (緩い・身体) 不注意に深入りしすぎる, のめりこんでしまう

2.3.27. kháp (きつい):

sĩa kháp bần (声・きつい・家) 家が割れんばかりの声

lín kháp pàak (舌・きつい・口) 口に比べて大きすぎる舌, 言いたくてもうまく言えない

cỏrakhêe kháp khỉoong (ワニ・きつい・運河) 運河が所狭しとなるほどの多くのワニ

khâao kháp mỗ (ご飯・きつい・鍋) 鍋にあふれるほどのご飯

ũũũ-chon kháp thanỗn (群衆・きつい・道路) 街路狭しとあふれるばかりの群衆

kháp khũ (きつい・ぎゅうぎゅう詰める) 密集する, 押し合いへしあう

kháp khũn (きつい・強い, 回して締める) 緊張した, やむを得ない立場に追い詰められた

kháp khũen (きつい・腹が立って仕様がな) 困り苦しんでいる, 困窮している, 恨んでいる

kháp ỏk (きつい・胸) 気詰まりな思いをする

kháp cai (きつい・心) 気詰まりな思いをする

「lữam 緩い」は, だらしない状態, 精神, そして行動における注意不足を意味し, 一方,

「kháp きつい」は物理的, 精神的に余裕がなく, 詰まったり, 追い詰められたりする状態を表すように意味が展開されている。

2.4. 内外覚形容詞 : nōk 外の, nai 中の

2.4.1. nōk (外の) :

khon nōk (人・外の) 部外者

khǒŋ nōk (物・外の) 外国の製品

nák-rian nōk (学生・外の) 外国へ留学してきたタイ人

mɛaŋ nōk (国・外の) 外国

bāan nōk (家・外の) 田舎

sǎa nōk (服・外の) 背広, ジャケット

hǔa nōk (頭・外の) 外国<特に西洋>で教育を受けまたは育ち外国的な物の考え方をする人

pl̥uak nōk (皮・外の) 外皮, 身につけているものや経済的な立場

nōk khōk (外の・小屋) 風俗習慣に反する, 型破りの

nōk r̥uŋ (外の・こと, 話) 話の本筋から離れた

nōk weela (外の・時間) 時間外

nōk l̥u nōk thaŋ (外の・道・外・道) 道を外れた, 常識を外れた

nōk sǎai-taa (外の・視線) 注目されていない, 認識されていない

nōk cai (外の・心) 浮気をする

2.4.2. nai (中の) :

khon nai (人・中の) 内部の人

kaŋkeŋ nai (ズボン・中の) 下着のパンツ

sǎa chán nai (服・層・中の) ブラジャー

khreŋ nai (部位・中の) 内蔵

nai cai (中の・心) 心の中で

khít lêek nai cai (計算する, 考える・数字・中の・心) 暗算する

nai sǎai-taa (中の・視線) 注目される, 認識される

「nōk 外の」が表, 中心・本筋から外れている状態, 認識の範囲外という意味で用いられるのに対し, 「nai 中の」は裏, 表に出ないものや行動, 認識の範囲内という意味的展開が見られる。

2.5. 遠近覚形容詞 : klâi 近い , klai 遠い

2.5.1. klâi (近い) :

klâi hũu klâi taa (近い・耳・近い・目) ~のおひざもとに, ~の目が届くところに, 注意・監督が行き届く

klâi cai (近い・心) <離れていても>愛する気持ちは変わらない

2.5.2. klai (遠い) :

klai hũu klai taa (遠い・耳・遠い・目) ~の目が届かないところに, 注意・監督が行き届かない

klai cai (遠い・心) <離れることにより> (愛の) 気持ちが離れる

klai puen thĩaŋ (遠い・大砲・正午) 首都から遠く離れている, 田舎っぺの, 時代遅れのばかな¹⁰⁾

「klâi 近い」は管理や持続が出来る範囲という意味に拡張されている。「klai 遠い」はその反対の意味を持つが, さらに, 発展に残されているという意味合いも持つようになっている。

2.6. 上下覚形容詞 : bon 上の , lâaŋ 下の

2.6.1. bon (上の) :

bũaŋ bon (側・上の) 上方, 天

bĩa bon (盤面・上の) 有利な立場にいる

řĩt lom bon (乗る・風・上の) タコが上空の風に乗っている, 調子に乗ってやめられない

2.6.2. lâaŋ (下の) :

bĩa lâaŋ (盤面・下の) 不利な立場にいる

「bon 上の」は, 立場が上であるという意味では, 「lâaŋ 下の」との反対の意味を持つが, 自制が出来る程度を超えるという意味にも広がっている。

2.7. 前後覚形容詞 : nãa 前の , lãŋ 後ろの

2.7.1. nãa (前の) :

wan nãa (日・前の) 後日

duan nãa (月・前の) 来月

10) klai puen thĩaŋ (遠い・大砲・正午) はラーマ 5 世の 1887 年から首都のバンコクのみ午砲が打ち上げられることに由来した [富田 1990:242]。

pii nâa (年・前の) 来年

khàao khùup nâa (ニュース・進む・前の) その後のニュース, 続報

kâao nâa (進む・前の) 進歩する, 発展する

cháaŋ tháo nâa (像・足・前の) 男性

2.7.2. lăŋ (後ろの):

lăŋ mɯɯ (後ろの・手) 手の甲

lăŋ tháo (後ろの・足) 足の甲

koɔŋ lăŋ (部隊・後ろの) 後衛

náp thǒoi lăŋ (数える・後退する・後ろの) 逆算する

tɛɛ hǒn lăŋ (から・時・後ろの) 過去において

wan lăŋ (日・後ろの) 後日

khwaam lăŋ (こと・後ろの) 過去の経験, 過去の出来事, 思い出

búŋ lăŋ (側・後ろの) 過去, 背景

khít nâa khít lăŋ (考える・前の・考える・後ろの) 周到に熟考する

thǒoi lăŋ (後退する・後ろの) 後退する, 退却する

thii lăŋ (回・後ろの) 今後

toon lăŋ lăŋ (時・後ろの・後ろの) 最近

láo lăŋ (力が抜けて弱った・後ろの) 後退するくものの程度や進歩の度合いが遅れている>

lăŋ càak (後ろの・～から) ～の後で

lăŋ chàak (後ろの・舞台) 内幕, <何か悪いことを>裏でこっそりやっている

cháaŋ tháo lăŋ (像・足・後ろの) 女性

「nâa 前の」は主に未来, 進歩, 主導的という意味の拡張が見られる。それに対し, 「lăŋ 後ろの」は主に過去, 後退, 従属的という比喩として転用されている。

2.8.運動覚形容詞: reo 早い, wai 機敏な, 素早い, cháa 遅い

2.8.1. reo (早い):

cai reo (心・早い) 気が早い

2.8.2. wai (機敏な, 素早い):

taa wai (目・素早い) 目が早い, 目ざとい

mɯɯ wai (手・素早い) 手が早い, よく盗む

pàak wai (口・素早い) 考えずに言ってしまう

hǔa wai (頭・素早い) 頭の回転が速い

hǔu wai (耳・素早い) 音に敏感な

camùuk wai (鼻・素早い) 匂いに敏感な

wai fai (素早い・火) 引火性の強い, 色事に関して手が速い

2.8.3. cháa(遅い):

hǔa cháa (頭・遅い) 頭の回転が遅い

「reo 早い」, 「wai 素早い」は物理的, 心理的な反応の早さにまで意味の展開が見られ, 心理的な反応が鈍い「cháa 遅い」との対照である。

ここまで提示された視覚語には, 他の言葉と共起せずにその語自体が別の意味に転用されることと, 他の言葉と共起して意味が拡張されることの両方の転用が見られる語もあれば, 他の語と共起することによりのみ意味が拡張され転用される語もある。前者は deɛŋ (赤い), lǎaŋ (黄色の), klom (丸い), yài (大きい), yòon (弛んでいる), lǎam (緩い) に見られる。それらの語は他の言葉と共起せずに転用される際, 転用された意味は具体的なものもあれば, 抽象的なものもあるが, すべては感覚以外の意味を持つようになっている。他の言葉と共起して, 意味が拡張される語については, その共起する言葉と拡張された意味について [表 1] にまとめる。[表 1] では, まずそれぞれの視覚語は感覚分野の言葉と共起するのか, 感覚分野以外の言葉と共起するのか, 感覚分野の言葉と共起する場合, どの感覚分野の言葉であるのか, 視覚の言葉と共起するなら「視」, 聴覚の言葉と共起するなら, 「聴」と記している。上記の熟語や慣用句には身体語彙が非常に多く見られたため, 視覚形容詞は身体語彙と共起すれば, 目, 頭などのように表記している。また, それぞれの共起によってもたらされた意味合いには感覚の意味があるのかどうか, 感覚の意味がある場合, どの感覚の意味をもつのかを提示する。たとえば, ○ (聴) は感覚の意味合いを持ち, その感覚は聴覚であること。感覚以外の意味を持つ場合, それぞれの意味合いは具体的なのか, 抽象的なのかを表示している。

[表 1]

基本の視覚語	感覚分野である共起語とその意味			感覚分野以外の共起語とその意味		
	共起の有無 (感覚) / 身体語彙	意味		共起の有無/身体語彙	意味	
		感覚	その他		感覚	その他
sawàaŋ 明るい	○ (視, 聴) / 目, 耳	×	具体, 抽象	○ / 口, 心	×	抽象
sǎi 透明な	○ (視, 聴) / 目	○ (聴)	具体, 抽象	○ / 頭, 顔, 心	×	具体, 抽象
mǎut 暗い	×	×	具体, 抽象	○ / 顔, 手	×	具体, 抽象
mua 震んだ	○ (視) / 目	×	具体, 抽象	○	×	抽象
dam 黒い	○ (視) / 目	×	具体, 抽象	○ / 頭, 顔, 体, 心	×	具体, 抽象
khǎao 白い	○ (視) / 目	×	具体, 抽象	○ / 頭	×	具体, 抽象
deɛŋ 赤い	○ (視) / 目	×	具体, 抽象	○ / 頭, 顔	×	具体, 抽象
khǐao 緑色の	○ (視, 聴, 嗅) / 目	○ (聴, 嗅)	具体	○ / 顔, 口	×	具体, 抽象
lǎaŋ 黄色い	×	×	×	○ / 顔	×	具体, 抽象
klom 丸い	×	×	×	○	○ (味)	具体, 抽象
lǎam 角張っている	×	×	×	○	×	抽象
lǎem 尖っている	○ (視, 聴, 味) / 目	○ (聴, 味)	抽象	○ / 頭	×	抽象
yaao 長い	○ (視, 聴) / 目	○ (聴)	具体, 抽象	○ / 手	×	具体, 抽象
sǎn 短い	○ (視, 聴) / 目	○ (聴)	具体, 抽象	○ / 手, 足, 口蓋垂	×	具体, 抽象
sǔuŋ 高い	○ (聴)	○ (聴)	×	○ / 頭, 心	×	具体, 抽象

tàm低い	○ (視, 聴) / 目	○ (聴)	抽象	○/心	×	具体, 抽象
ña背が低い	×	×	×	○	×	抽象
yài大きい	○ (視, 聴)	○ (聴)	抽象	○/顔	×	具体, 抽象
tooでかい	○ (視) / 目	×	具体, 抽象	○/頭, 心	×	具体, 抽象
lék小さい	○ (視, 聴) / 目	○ (聴)	抽象	○	×	具体, 抽象
mài新しい	×	×	×	○/頭, 顔, 手	×	具体, 抽象
kào古い	×	×	×	○/頭, 顔, 手	×	具体, 抽象
kwâa広い	○ (視) / 目	×	抽象	○/心	×	抽象
khêp狭い	○ (視) / 目	×	抽象	○/心	×	抽象
lú深い	○ (味)	○ (味)	×	○	×	抽象
tàn浅い	×	×	×	○/心	×	抽象
nǎa厚い	○ (視, 聴) / 目, 耳	○ (視, 聴)	×	○/顔, 髪	×	具体, 抽象
baa薄い	○ (視, 触) / 目	○ (視, 触)	×	○/顔, 髪	×	具体, 抽象
taɣピンと張った	×	×	×	○/顔	×	具体, 抽象
yòon弛んでいる	×	×	×	○	×	抽象
tron真っ直ぐ	×	×	×	○	×	抽象
chêe歪んだ, 斜めになっている	×	×	×	○	×	抽象
tháp空気や光が十分に通らない	×	×	×	○/頭	×	具体, 抽象
pròongあまねく, 密でない	○ (視) / 目	○ (視)	×	○/心	×	具体, 抽象
lūam緩い	×	×	×	○/体	×	抽象
khápきつい	○ (聴)	○ (聴)	×	○/口, 舌, 胸, 心	×	具体, 抽象
nôok外	○ (視) / 目	×	抽象	○/頭, 心	×	具体, 抽象
nai中	○ (視) / 目	×	抽象	○/心	×	具体, 抽象
klâi近い	○ (視, 聴) / 目, 耳	×	具体, 抽象	○/心	×	抽象
klai遠い	○ (視, 聴) / 目, 耳	×	具体, 抽象	○/心	×	具体, 抽象
bon上	×	×	×	○	×	抽象
lâa下	×	×	×	○	×	抽象
nâa前	×	×	×	○/足	×	具体, 抽象
lǎo後ろ	×	×	×	○/手, 足	×	具体, 抽象
reo早い	×	×	×	○/心	×	抽象
wai素早い	○ (視, 聴, 嗅) / 目, 耳, 鼻	○ (視, 聴, 嗅)	×	○/頭, 手, 口	×	抽象
châa遅い	×	×	×	○/頭	×	抽象

3. 視覚形容詞の比喩転用の形式と意味

2. で提示されている視覚形容詞の拡張された意味と転用状況から、タイ語における視覚形容詞の比喩転用には次のような特徴が見られる。

1. 視覚形容詞における意味的拡張は必ずしも基本視覚形容詞と何らかの言葉との共起から派生された熟語や慣用句だけに見られるとは限らない。他の言葉と共起することなく意味的拡張が見られるものもある。
2. 比喩転用された視覚形容詞には、感覚分野の意味合いは持たなくなるものがあっても、感覚分野以外の意味合いを持つことはすべての形容詞に見られる。また、具体的な意味を持たなくなる語が全体の約 30% も見られるが、抽象的な意味合いはすべての形容詞が持つことになる。

3. 約 40% の視覚形容詞は、感覚分野の言葉との共起は見られないが、すべての視覚形容詞は感覚分野以外の語（句）との共起が見られる。そして、感覚分野の言葉との共起が見られる場合でも、必ずしも感覚の意味合いを持つようになるとは限らない。また、感覚以外の分野の言葉と共起する場合、感覚の意味合いを持つようになる可能性は、「klom klòom（丸い・柱を削って丸く美しくする）＝調和がよい（味）」にしか見られないように、極めて低い。
4. 感覚分野の言葉と共起する視覚形容詞は視覚形容詞全体の中の約 6 割を占めている。その中の 80% を超えたものが、同じ視覚分野の言葉との共起があり、感覚分野の言葉との共起の中では最も多く見られる。次に多く見られるのは、聴覚（55%）、そして味覚と嗅覚（それぞれ 7%）、触覚（3%）の分野の言葉との共起という順になる¹¹⁾。視覚分野の言葉同士の共起の場合、「dam mēut（黒い・暗い）＝真相が明らかでない」、「yàì too（大きい・でかい）＝地位が高い、大々的」、「taa tà̃m（目・低い）＝見る目がない」のように、視覚、またはいずれの感覚の意味合いも持たなくなるものが多く見られる。聴覚、味覚、嗅覚、触覚の分野と共起する場合はそれぞれの感覚の意味合いを持つ。しかし、「hūu taa sawàaŋ（耳・目・明るい）＝目が覚めた」、「nǎa hūu nǎa taa（厚い・耳・厚い・目）＝非常に多い」、「klài hūu klài taa（近い・耳・近い・目）＝見届ける範囲」のように、視覚形容詞が視覚分野の身体部位「目」と聴覚分野の身体部位「耳」と同時に共起する熟語や慣用句の場合、視覚や聴覚といった複数の感覚が認識されることから展開し、感覚以外の意味合いを持つようになる。そして、触覚語との共起の場合、現在のところ、「baaŋ bao（薄い・軽い）＝軽やかな」しか見られない上に、インフォーマントによると、例 1 のように文学的な表現であり、ファッションや化粧品品の広告に使用されていることはあるが、日常生活の中の口語としては普通用いられないという指摘があったため、この比喩転用の考察は別の機会に持つこととしたい。

例 1 : pēŋ phrēt thīi hāi sǎmphāt ʔan baaŋ-bao phāa phūu sūai nian sǎi.....

軽やかな触感を与えるプレイスパウダーは、なめらかで、透明感のある美しい肌を引き出して。

[http://beautifulforyour.tarad.com/product.detail_381026_th_2830490]

5. 視覚形容詞は、感覚分野だけではなく、感覚分野以外の言葉とも幅広く共起する。その中で特に多く見られるのは身体語彙である。視覚形容詞の約 75% は身体語彙と共起する。視覚形容詞の 45% あまりには目との共起があり、身体語彙との共起の中では最も多く見

11) ここで示しているパーセンテージの分母は、すべての視覚形容詞ではなく、感覚分野の言葉と共起する視覚形容詞のみを対象としている。また、それらの形容詞には、共起する感覚言葉が一つだけのものもあれば、複数のものもあるため、それぞれの感覚語ごとに出した数字の計が 100% を超えているのはそのためである。

られる。その次は頭 (27%), 顔 (23%), 手 (14%), という順になる。これらの身体部位の言葉にも、たとえば、目は判断力、頭は思考、顔は面目、手は行動などのように意味的拡張が見られるが、これらの比喩は別の機会に検討することにした。身体部位の言葉と同じように多く見られるのは「cai (心)」である。視覚形容詞の約 34% は「cai (心)」という抽象的な器官を表す言葉と共起する。その中に、「taa (目)」と共起する一方で、「cai (心)」とも共起する視覚語が見られる。たとえば、「taa sǎi (目・透明な) = 目が澄んでいる、純粹 (外見)」と「cai sǎi (心・透明な) = 純粹な心」、「taa tà̃m (目・低い) = 見る目がない」と「cai tà̃m (心・低い) = 心の下劣な」、「nôok sǎi-taa (外の・視線) = 注目されていない」と「nôok cai (外の・心) = 浮気する」など。「cai 心」は、物理的な器官として外部の対象を認識する「taa 目」と違い、内面的で精神的な機能をつかさどる抽象的な器官であるため、主として人間の知的、情意的な精神や心理を表すように比喩転用されている。また、視覚形容詞、特に明暗覚や位置づけの形容詞は「cai (心)」や「panyaa (知恵)」との共起には、例 2 のように、仏教に関する話を中心に用いられる。たとえば、「cai sawà̃n (心・明るい) = さえている、心が晴れ晴れする」、「cai sǎi (心・透明な) = 純粹な心」、「cai tà̃m (心・低い) = 心の下劣な」など。

例 2 : kaan n̄n̄ samaathí? sǎmâat chá̃i ph̄a thamh̄ai cai sãjòp, cai sawà̃n, k̄òet panyaa....

精神的に落ち着かせるように、心を晴れ晴れとさせるように、また知恵才覚を持たせることは、瞑想を通して生じさせることが出来る。

[http://www.visalo.org/QA/Q560109_2.htm]

6. 視覚形容詞の基本語同士の間では、たとえば、sawà̃n (明るい) と m̄ut (暗い)、s̄un̄ (高い) と tà̃m (低い) のように元来、対照的な意味を持つものは比喩転用されると、元の対照的な意味合いに基づいて拡張されることは一般的に見られる。しかし、yài (大きい) と too (でかい) のような本来、類似の意味を持っているのに、違った意味合いを持つように展開するものもあれば、dam (黒い) と dẽn̄ (赤い)、k̄lom (丸い) と l̄em (尖がっている)¹²⁾ のような、従来対照的な意味を持っていないにもかかわらず、比喩転用される時には対照的な意味合いを持つようになるものもある。また、全体的に、対照的な意味合いを持つようになっている語句には、基本語が元来持っている意味には良し悪しや上・下、プラス・マイナスの差はなくても、転用されると片方がプラス、または積極的な評価の表現として用いられるのに対し、もう一方がマイナス、または消極的な評価として用いられるようになる。

7. すべての視覚形容詞は、人の身体的・精神的状態、行動、物・出来事の状態、といった感

12) タイ語では、k̄lom (丸い) の反対語は l̄iam (角張っている)、l̄em (尖がっている) の反対語は th̄u (尖っていないさま、鋭利でないさま) である。

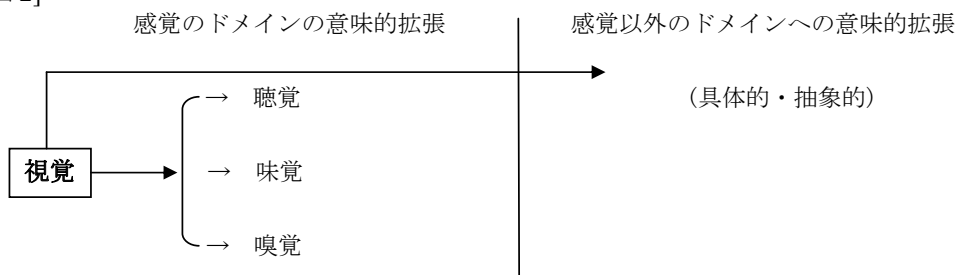
覚以外のドメインへの意味的拡張を持っている。特に、人の身体的・精神的状態、行動については、人種、年齢、集団、性別、地域、社会的な立場、思考、能力、性格、精神状態、倫理、道徳などにまつわる意味的拡張を持つようになった。

人種、年齢、集団の違いは主に色覚の形容詞の比喩転用に見られる。性別は位置づけの形容詞の比喩転用に見られ、地域、社会的な立場は主に形体覚の形容詞と位置づけの形容詞の比喩転用に見られる。思考や能力は形体覚と運動覚の形容詞の比喩転用に見られる。性格は主に形体覚の形容詞の比喩転用に見られ、そして、精神状態、倫理、道徳は明暗覚、色覚、さらに形体覚の形容詞の比喩転用に見られる。

4. 視覚形容詞の比喩転用の方向性と意味的特徴

視覚形容詞には感覚分野の言葉との共起がない語も見られるが、すべての視覚形容詞は感覚分野以外の言葉と共起し、感覚分野だけではなく、感覚分野以外の意味も持つようになることから、視覚形容詞は様々な分野に渡って幅広く転用されていることが分かった。視覚形容詞そのものがいきなり感覚以外の分野の意味合いを持つように拡張されることが見られる場合もあるが、同じ視覚語または他の感覚分野の言葉と共起し、感覚の意味を持つようになって、また感覚の分野から離れて、感覚以外の意味を持つように拡張される場合の方が多く見られる。同じ感覚分野の意味的な拡張では<視覚→聴覚>、<視覚→味覚>、<視覚→嗅覚>のような転用の方向性が見られる。その中で、最も多く転用されるのは<視覚→聴覚>であり、最も少なく転用されているのは<視覚→嗅覚>である。<視覚→触覚>は限られた熟語にしか見られず、限られた場合にしか用いられていないので、ここでは、<視覚→触覚>といった転用があると言えるところまでには至っていない。本稿では、それらの共感覚的比喩 (Synaesthetic Metaphor) は Williams J.M. [1976] の指摘にあった<視覚→聴覚>の転用はあるが<視覚→触覚>の転用はないということを巧まずして支持することとなったが、一方、<視覚→味覚>、<視覚→嗅覚>の転用もないといった氏の指摘とは違った結果となった。比喩転用の意味的拡張は[図2]のような方向になる。

[図2]



感覚のドメイン内の聴覚、味覚そして嗅覚だけではなく、感覚のドメインを超えた人や物事の状態、性質も視覚で見立てるように、視覚を表す言葉が幅広く転用されているのは、視覚が一般的に眼で見ることで直接認識や確認をすることが出来るからだと考えられる。意味的に拡張された視覚語には人々の身体的な違い、上下の立場の違い、または能力、精神状態、倫理的、道徳的な違いにより、一方が他方より上または下に位置づけられ、また一方が善であり、他方が悪であるなどの価値観が付加されているような意味まで転用されることはタイ語においての比喩転用の特徴の一つだと考えられる。一般的に、タイの社会は、仏教の教えに大いに影響を受けている。そして、人々の身体的、社会的、精神的、倫理的の違いを意識することが顕著な社会であることは多くの言語表現に見られてきているが、視覚形容詞からの比喩転用においてもそのことを再確認することができた。

5. おわりに

本稿で取り上げ、検討した視覚形容詞は他にも数多くあるため、上記の研究結果を確認できるように、今後より多くの視覚形容詞を取り上げて分析することが望まれる。特に、＜視覚→触覚＞といった比喩転用や視覚と触覚との共感覚については、視覚側だけではなく、同様に触覚の形容詞も分析と考察の必要があると思われるので、合わせて今後の研究課題としたい。

参考文献

- 外山滋比古, 1989, 「慣用表現とは何か」, 『言語』2月号, 大修館書店, 東京, pp.22-27.
- 国広哲弥, 1989, 「五感を表す語彙—共感覚比喩的体系」, 『言語』11月号, 大修館書店, 東京, pp.28-31.
- 佐藤博史, 2000, 「タイ語における感覚形容詞のメタファー的拡張」, 『天理大学学芸』第52巻(第1号), 天理大学学術研究会, 奈良, pp.1-37.
- 小学館, 2006, 『精選版日本国語大辞典』, 小学館, 東京.
- 瀬戸賢一, 1995(2011), 『メタファー思考: 意味と認識のしくみ』講談社現代新書, 東京.
- , 2003, 「五感で味わう」, 『ことばは味を超える』, 海鳴社, 東京, pp.62-78.
- , 2005, 「ことばで味わう—表現のテクニックおしえます—」, 『味ことばの世界』, 海鳴社, 東京, pp.11-53.
- 武井那彦, 1989, 「色彩と形態と言語」, 『言語』18, No.11, 大修館書店, 東京, pp.38-45.
- 辻本智子, 2005, 「比喩で味わう—ことばと身体の深い関係」, 『味ことばの世界』, 海鳴社, 東京, pp.137-161.
- 富田竹二郎, 1990, 『タイ日辞典』, 養徳社, 奈良.
- 山梨正明, 1988, 『比喩と理解』, 東京大学出版会, 東京.

- G・レイコフ& M・ジョンソン, 1980, 渡部昇一, 楠瀬淳三, 下谷和幸 (訳) , 1986, 『レトリックと人生—Metaphors We Live By』, 大修館書店, 東京 .
- 宮本マラシー ,2010a, 「タイ語における色彩表現の意味的特徴」, 『大阪大学世界言語研究センター論集』第2号, 大阪大学, 大阪 ,pp.35-64.
- , 2010b, 「タイ語における色彩修飾語の語彙意味の特徴」, 『大阪大学世界言語研究センター論集』第4号, 大阪大学, 大阪 ,pp.55-78.
- , 2013, 「味を表すタイ語表現における比喩」, 『言語文化研究』第39号, 大阪大学, 大学院言語文化研究科 ,pp.125-148.
- 安井稔, 2007, 『言外の意味 (下)』, 開拓社, 東京 .
- Bandhumedha Navavan,2001, ” *Khlang Kham*” , Amarin, Bangkok.
- Ratchabandittayasathan,2003, “*Pojchanaanukrom Chabap Ratchabandittayasathan pho.sor. 2542*” , Naanmee Publishing, Bangkok.
- Williams J.M., 1976, ‘Synaesthetic adjective: a possible law of semantic universals’ , “*Language*” , 52:2, pp.461-477.